

新学術領域 構成論的発達科学一般公開シンポジウム要旨

当事者から見た発達障害

熊谷晋一郎

ASD 研究における課題には、①Intrapersonal な問題と Interpersonal な問題の混同、②ASD カテゴリー内部の多様性、③Autistic Sociality の可能性、④主観的変数の重要性などが挙げられる。2001 年以降わが国で広まりつつある当事者研究は、精神障害や発達障害の人々が自らの困難を研究対象として位置づけ、類似した経験を持つ仲間とともにそのメカニズムを明らかにしようという活動であるが、ここで生まれた知見を ASD 研究に還流することは、上記の課題に取り組むうえで有効であると考えられる。本講演では、当事者研究の中から提案された ASD についての「まとめあげ困難仮説」を紹介し、それを ASD に関する行動レベルの先行研究と比較照応することで、主観的経験と行動の両方を説明する作業仮説を提案する。また、当事者研究の場自体が、多数派とは異なる語用論的秩序を備えたひとつの Autistic Sociality になっている可能性を示す。